

国際教育協力懇談会報告 2006

大学発知のODA ～知的国際貢献に向けて～

課題



- 貧困、感染症、災害等の地球的規模の課題解決のための知的貢献
- 我が国ODAにおける量から質への転換
- 良好な外交関係の構築のためのODAの戦略的な実施



- 教育全般を通じた国際化・グローバル化への対応
- アジア地域を中心とした高等教育需要への対応
- 国際開発協力への参画を通じた我が国の教育改善・大学改革

双方の課題に応えるための **知的国際貢献** の必要性

戦略的な教育協力の推進

- ◆ 理数科教育など教育経験のオープンリソース化
- ◆ アジア中心に高等教育・職業教育分野の戦略的展開(息の長い協力、交流の促進)
- ◆ NGOや教育関係者等の連携強化
- ◆ 国際開発協力に係る人材の育成
- ◆ 初等中等教育における国際理解教育の充実

大学が有する「知」の活用

- ◆ 国際貢献のための「知的コミュニティ」の構築
 - ・「知の見本市機能」の創設
 - ・「知的ネットワーク」の形成
 - ・「目利き人材」によるコンサルテーション
 - ・プロジェクトコーディネーターの育成
- ◆ 大学が有する援助リソース(研究成果や高度人材育成機能)活用のための支援

具体的方策

国際開発協力サポートセンター・プロジェクトによる支援

国際開発協力のための「知的コミュニティ」の構築

